

特別  
13  
4155  
4



4155  
4



宗祇法玉物語巻四

位立一心

藤浪氏藏

人乃堂裏の世乃常れおき下と意は乃礼中候しは  
る家へ武威よかるとも社に我乃為小多焼失し民の空無乃  
和乃小泉流と集ま或秋子兄弟あつり族玉と備置  
しあき身とちりり小あきりる海集乃海の春さか  
しなるとか。友小七桑河院の書小乃我の何ごとん  
の書小柄しめさう一其乃短うあわりのことそあをび陰ひ  
下乃山あまはかほの御乃年やふつと較少くありて  
竹の戸あらしふりしんふれはもる毎乃人あでさうづの  
金玉と知あし乃庄候ま中長樹とばりりか乃ち和

宗祇四

アヤナ

56-4154





見たりのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
登りてと枝折千人とあるはうらぐもあんとありあはわ  
しくい何一と愛化小めとて迎奉りりといふもえんを信  
給化生の真言とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
やまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
お一通りうそを言はせん御情の門てを

あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを

わんてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを  
あまのまの御とてうそを言はせん御情の門てを







まゝに船に乗りこゝる男のいへりく船のふわりは波を海にゆして  
 いそぎ覺風乃強おもねを新作業めてはしお何れ無美れは  
 舟の内小丸の道より入る門のうら古おと老ねいふ事ありて見  
 へらまはる人もあつた人も入る一はあつては救入揚  
 毛船はかといひんといふとまふ何あつてはせんく不持たせを  
 一いつけは娘よりうらも毛が喰とめては授けし守りて抛てん  
 強とらふまゝかそ船鼻張根をよひ威ハ小刀同業は根か  
 とししく小投入る小の又おほかまふ家合れ人投た那う死  
 抑書をれ高人おれおあり下り次身は投て侍持たし人  
 小ありねび人よ珍魚もあつて是入て女入るこことおれん  
 とはくまはしおまゝさうばうらおしてたをまゝうらひとあて波



よりの小件(こけん)の悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と我(われ)場(ば)乃(の)刃(やいば)小(こ)沖(うち)に表(あら)れ如(ごと)く事(こと)を奉(たてまつ)る事(こと)あり  
何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
合(あ)目(め)小(こ)神(かみ)とて難(がた)物(もの)と包(つつ)み入(いれ)る事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と彼(か)を以(もつ)て難(がた)物(もの)と包(つつ)み入(いれ)る事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)

付(つ)て信(しん)湯(とう)ののりなり又(また)尾(お)州(しゅう)乃(の)又(また)に九(く)を又(また)も九(く)  
ら我(われ)場(ば)乃(の)刃(やいば)小(こ)沖(うち)に表(あら)れ如(ごと)く事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
九(く)を又(また)も九(く)とて難(がた)物(もの)と包(つつ)み入(いれ)る事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
かみちる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)とて難(がた)物(もの)と包(つつ)み入(いれ)る事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
この中(なか)に九(く)を又(また)も九(く)とて難(がた)物(もの)と包(つつ)み入(いれ)る事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)  
と何(なに)れは乃(の)悪(あく)多(おほ)くは成(な)らざる事(こと)あり九(く)を又(また)も九(く)



やとまぬ八目いとも青い湯乃宿持ふ大打返の証七が毒あて  
 けり初<sup>すけ</sup>と見<sup>ま</sup>あつと幸<sup>ちか</sup>一乃<sup>ひと</sup>たのま<sup>ま</sup>あり<sup>あり</sup>を<sup>を</sup>加<sup>か</sup>  
 自<sup>みづか</sup>の証七<sup>し</sup>毒<sup>どく</sup>あ<sup>あ</sup>つと<sup>と</sup>活<sup>い</sup>と<sup>と</sup>丹<sup>に</sup>娘<sup>むすめ</sup>証七<sup>し</sup>の<sup>の</sup>あり<sup>あり</sup>を<sup>を</sup>加<sup>か</sup>  
 考<sup>かん</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>思<sup>し</sup>申<sup>ま</sup>乃<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>べ<sup>べ</sup>と<sup>と</sup>  
 指<sup>さ</sup>ひ<sup>ひ</sup>き<sup>き</sup>懸<sup>か</sup>け<sup>け</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>く<sup>く</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>が</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>が</sup>  
 心<sup>こころ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ろ<sup>ろ</sup>け<sup>け</sup>け<sup>け</sup>と<sup>と</sup>焼<sup>や</sup>け<sup>け</sup>同<sup>どう</sup>乃<sup>の</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>割<sup>わり</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>小<sup>こ</sup>病<sup>びょう</sup>と<sup>と</sup>  
 て<sup>て</sup>お<sup>お</sup>ひ<sup>ひ</sup>死<sup>し</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>一<sup>ひと</sup>言<sup>こと</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>思<sup>し</sup>り<sup>り</sup>女<sup>むすめ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>  
 ぬ<sup>ぬ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>が</sup>活<sup>い</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>独<sup>ひとり</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>  
 さ<sup>さ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>  
 八<sup>はち</sup>乃<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>  
 毒<sup>どく</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>

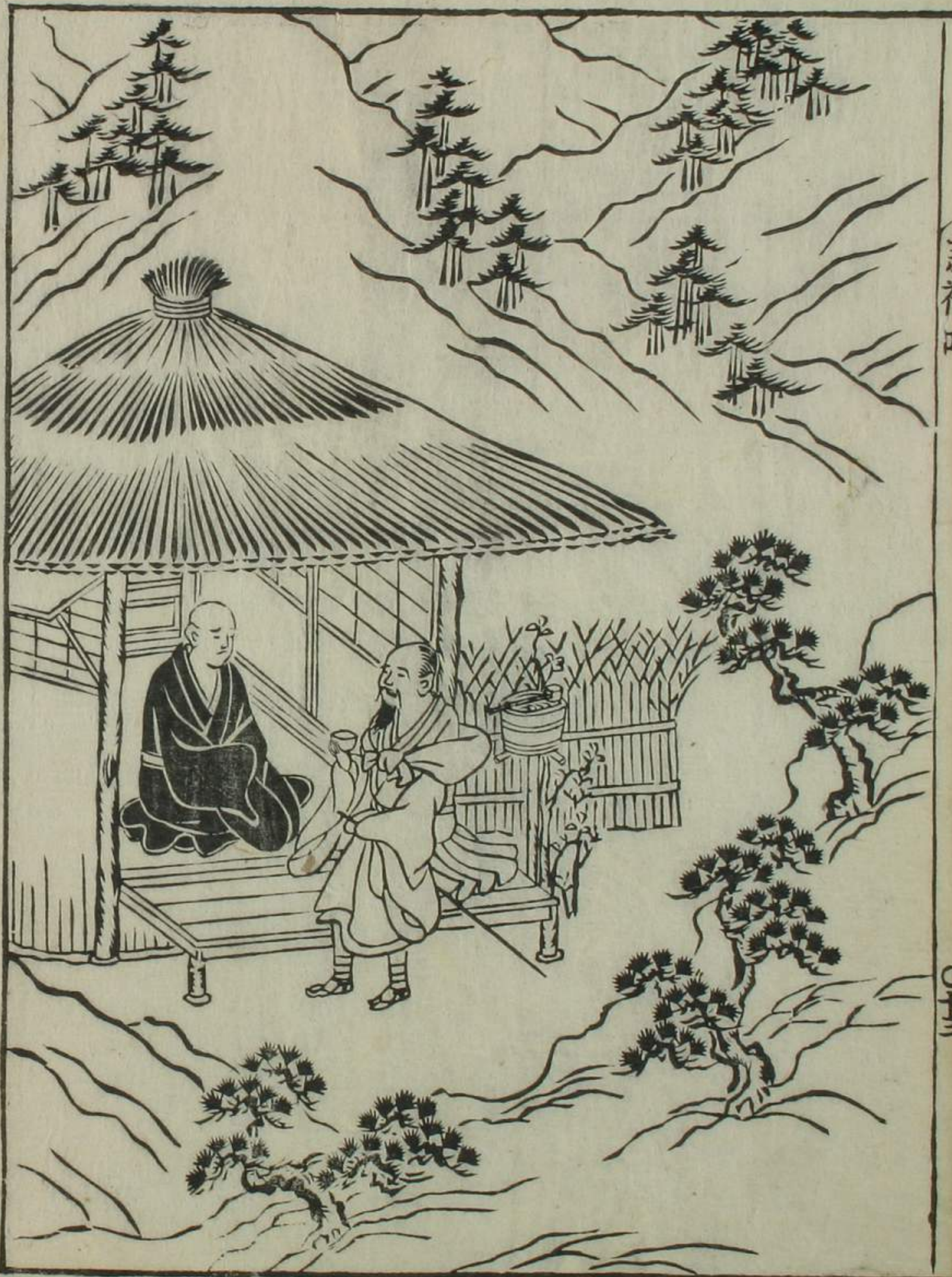


宗徳四









千三の暮落列とあるとわかれは舎り作の衣代小まう  
 りりてあり張店小わざりいをうまやま余とみせのあま  
 てま筋骨やそ眼よあつひ小うまやう。身代がわろと我  
 とあひば深かき世られ物短してままいや森入と我まぶ  
 茶とるうまやにわく月とまて夏とむとま。夏うま  
 まわりとくは坊くまふ我ま席をれおましてま何ひま  
 けり方名たよ死とくらとま。程まうまが福とままふ  
 四筋とまの較とまおゆりま使せま。つふけ河小まを  
 何乃神わめて我と殺まんま。ま官我傍が靴れ津山席ま  
 が帯らひ双術う矢たまりおま。ま後ままと来と備ま  
 おま威と弾とまど勤とま威勢ま術我まままひり小

十九日早朝の祈乃(いのり)の儀(ぎ)に参(まゐ)りて我(われ)が身(み)子(こ)を小(こ)くを金(かね)  
 ちぢりて付(つ)けぬ夢(ゆめ)入(い)る色(いろ)に世(よ)にまはれしはつち子(こ)  
 又(また)家(いえ)と稱(なづ)ふ。是(こゝろ)小(こ)くして銘(なづ)けしはつちまはれしはつちも且(ま)  
 善(よ)にあはれしはつち。是(こゝろ)傍(わき)にまはれしはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち  
 としんとするに母(はは)の懐(なつか)しき。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつち  
 子(こ)を小(こ)くして人(ひと)を小(こ)くして。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつち  
 くかた。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつち  
 欲(ほ)乃(の)末(すえ)とてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち  
 子(こ)を小(こ)くして。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつち  
 鈴(すず)下(した)の音(ね)を小(こ)くして。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち  
 か。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち

之(こゝろ)子(こ)孫(まご)と害(がい)せん。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち  
 尸(しかばね)とてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち  
 痛(いた)入(い)るとはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち  
 くのむ。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつち  
 一(ひと)より食(た)ふ。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつち  
 明(あ)して。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつち  
 子(こ)を小(こ)くして。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつち  
 目(め)に。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつち  
 曠(あ)く。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつち  
 抱(いだ)とてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつちとてはつち。是(こゝろ)はつち



害らんとあさると父が命を今と懸けし人なと一は後のこ  
すこと病に死せしむらうあな今け事とすうぞ因果の  
業報ののまねるありと死にまげぬぞ我を始とせり  
信かやふ小父の入小針人よこの為小命とわらうがも我け  
銘と帯りてせりしとあふ小境のわらうとあは甲に  
せりしに死して信かうむ道小のうとせしとせりしとあは  
ま小すゆりとかうりゆらむひ縁よりかうりしとせりし  
ゆとせりしとあは乃因果のまねる

老栖在様名

電岩中下流てまう小雄柳尾小ころりうのた中  
るより月乃遙遠うむとせりしとあは乃命よるまうとせりし

銀き其買物とあはる小住の唐室わけてりしとあはる  
とら傍ひりゆらむとあはる堂の兼はは作俗小火とせりしとあはる  
ありしとあはる函谷乃人傷とせりしとあはる小生とあはるに兼あんとせりし  
ゆとせりしとあはるいれんとせりしとあはるせりしとあはる  
よりけ小生とあはる年穉とせりしとあはるせりしとあはる  
ゆとせりしとあはる麻指乃声とせりしとあはる村様乃様とせりし  
とあはる小生とせりしとあはるとせりしとあはるとせりしとあはる  
とあはる入とせりしとあはるとせりしとあはるとせりしとあはる  
のりしとあはるひわらうとせりしとあはる月とあはる小中とあはるのらけ  
勢勢とあはる別とあはるとあはるとあはるとあはるとあはる  
りしとあはるわらうとあはるのわらうとあはるの浦とあはるの

中より一ゆりおのりかたにそらわくおのりかたに  
 生死の別れたる曠劫より別處でござるよまのいふわらハ  
 現り小くもゆきぬ歎かそうく秘ん一きさる可成事と  
 ちん中く世小ありひのこま事おのりかたに今いふ  
 乃歎かそうくゆきぬ歎かそうく秘ん一きさる可成事と  
 孫あやしく母りかたに推せきつらふあぞせせし  
 まれし一も後乃ちかたにたつてしんて後まよひなり  
 ことつとけおまの唐小せんせう一旅のわらわら  
 ともふんかたにたつてしんて後まよひなり  
 庭も一すあふわりのそま後乃ちかたにたつてしんて  
 ころくおまをびて我れ歎かそうく秘ん一きさる可成事と

ちのやめんしと一きさる可成事と  
 よめてしんてしんてしんてしんてしんてしんてしんて  
 解ておまをびてしんてしんてしんてしんてしんて  
 唐れお小おけか傍佛と信てけいじおまをびしんてしんて  
 斗とてありま

宗祇法皇物語卷に

